

ふくしのひと



よりよい明日へ向かうための お手伝いに全力を尽くしています。



清野
圭司
さん



NTT東日本札幌病院勤務
医療ソーシャルワーカー
生活福祉学科
2006年卒業
北海道札幌藻岩高等学校出身

社会福祉士

私は総合病院の医療ソーシャルワーカーとして、外来・入院患者さんの相談支援にあたっています。1日平均で10名ほどになると思います。相談内容は、受診のこと、身体障害者手帳や介護保険の申請について、退院してご自宅に戻られる際の調整など、多岐にわたっています。地域の各種機関と連携して患者さんを支える取り組みも行っており、その窓口として近隣のクリニックなどと連絡をとりあうことも少なくありません。院内外のさまざまな職種の人と話すなかで、これは誰のためのやりとりなのかを一瞬見失いそうになることもありますが、すべては患者さんの利益のため。この原則だけは常に意識しながら働くことを心がけています。病気や障がいなどで仕事を辞めざるを得ないケースなど、その方の生活が一変してしまうこともあります。そのような人生の節目に立ち会い、よりよい明日へ向かうためのお手伝いができることが、ソーシャルワーカーという仕事の大好きなやりがいだと感じています。

その方らしい暮らしづくりは、
心を通わせることから。

本作 静香さん
Shizuka Motosaku

社会福祉法人 札肢会
障がい者支援施設 あゆ夢勤務
生活支援員
地域福祉学科
2017年卒業
札幌東商業高等学校出身

介護福祉士



入所・通所のサービスを提供する障がい者支援施設で働いています。利用者さまにはそれぞれ、「翌日に着る服を置く位置」などの習慣やこだわりがあるので、できる限りお手伝いをして気持ちよく過ごしてもらいたいと思っています。大学3年生の夏からこの施設でアルバイトを始め、卒業後に職員となりました。学生時代は利用者さまと楽しく過ごすことが第一でしたが、今は担当する方の支援計画を立てるなど、責任感が大きくなっています。まだわからない部分も多いので、先輩や上司にアドバイスをいただきながらしっかり仕事を進めたいです。それと、私も以前はそうでしたが、障がいのある方に対して身構えてしまう方もいると思います。大学のボランティアサークルで施設に通うようになり、いつしかに過ぎずなかで、徐々に心が通じあう実感を得て偏見のようなものはなくなりました。今後も一人ひとりの利用者さまの心をよく理解し、その方らしい暮らしのためにさまざまなお手伝いをしていきたいです。